

国 絵 図 ニ ュ ー ス

『国絵図の世界』 発刊される

『国絵図の世界』(定価 21000 円、柏書房)が発刊されました。多くの皆様にご執筆いただき立派なものになりました。初刊 1000 部はすでに店頭に並ぶ前の予約で売り切れました。大きな反響を呼び、研究成果が高く評価されています。会員諸氏のご協力に対し深く御礼申し上げます。

第 18 回研究会 茨城大会

本年度の例会は日本地理学会秋季大会(会場:茨城大学水戸キャンパス)におきまして、研究発表は公開講演形式で、絵図熟覧は巡検形式で、日本地理学会会員の参加者と合同で開催します。絵図熟覧は個人で幕末と明治の博物館に行かれても結構ですし、宿泊も自由です。なお、絵図熟覧の巡検は人数制限があります。日本地理学会秋季大会の詳細は、<http://geography.edu.ibaraki.ac.jp/>をご覧ください。申込みの締め切りは、8 月 30 日です。

公開講演「国絵図の世界」 聴講無料 直接 10 番教室へお入り下さい。大会受付で聞かれた場合は、国絵図研究会会員と述べてください。

開催日時: 9 月 18 日(日) 13 時より 16 時 30 分まで

会 場: 茨城大学共通教育棟 10 番教室(水戸駅北口、7 番バス乗り場より「栄町経由茨城大学行き」乗車、終点下車、所要時間 30 分、バスは約 10 分間隔で運行)

13:00~14:00 川村博忠(東亜大): 国絵図の世界ー江戸時代の国土基本図ー

14:00~14:30 杉本史子(東京大): 国図と出版文化

14:30~15:00 平井松午(徳島大): 国絵図を三次元表示するー絵図の GIS 分析ー

15:30~16:00 玉川里子(水戸市立博物館): 茨城が生んだ江戸時代の地理学者たち

16:00~16:30 小野寺淳(茨城大): 絵図を写す人々ー常陸国絵図を例にー

(終了後、17:00 に教育学部棟前にて、ホテル「オーシャンビュー大洗」のマイクロバスが待っておりますので、ご乗車下さい。)

絵図熟覧「茨城が生んだ江戸時代の地理学者たちー茨城の風土と地理学ー」

集 合: 9 月 19 日(月・祝) 9 時 00 分 幕末と明治の博物館「企画展: 国絵図の世界ー古地図にみる茨城ー」開催中(展示説明: 尾崎久美子学芸員: 研究会会員)

(ホテルから幕末と明治の博物館へマイクロバスで送迎いたします。)

コース: 大洗: 幕末と明治の博物館ー常磐高速ー伊奈町: 町立間宮林蔵記念館ー県南・県西地域の農業景観などー古河: 市立古河歴史博物館ー古河市内巡検(徒歩)ー

1 次解散: 古河駅(予定 15 時頃)ー2 次解散: 水戸駅(予定 17 時頃)

案内者: 小野寺淳(茨城大・責任者)、村山朝子(茨城大)、藤永豪(神奈川大)、岩間信之(関東学園大・非)、栗島英明(産総研)

募集人員: 20 名(先着順、雨天決行)

参加費: 5,000 円(入館料・昼食代を含む) 公開講演当日、共通教育棟 2 号館の玄関入って左に設置した 0「大会受付」の「巡検受付」でお支払い下さい。

地勢図: 「水戸」「宇都宮」「千葉」「東京」

宿泊: オーシャンビュー大洗 12,500 円(朝夕食付き) 茨城大学より送迎あり。

同封はがきで申込みください。申込み締め切りは、8 月 30 日です。

申込先: 〒310-8512 水戸市文京 2-1-1 茨城大学教育学部 小野寺淳

Tel 029-228-8294 E-mail: onodera@mx.ibaraki.ac.jp

献上国絵図の修復について

礒永 和貴

江戸城中央部、歴代将軍の霊廟があった紅葉山に幕府官庫が建てられたのは寛永16(1639)年のことであった。それが、明治以降になって建てられていた場所に因み、紅葉山文庫(以下、文庫と略)と称されるようになったのである。周知のごとく幕府に献上された国絵図は実務用として1枚が勘定所へ、もう1枚はこの紅葉山文庫に秘蔵されていた。文庫に納められた国絵図については、東京大学史料編纂所編『大日本近世史料 幕府書物方日記』(以下、日記と略)に記録が残されている。今回はそのなかから享保4(1719)年6月5日から24日までの間(日記3巻、322~344頁)に行なわれた献上された元禄国絵図(新国絵図)の修復についてのいきさつをみてみたい。時は、八代将軍吉宗が享保改革に取りかかった頃のことである。

文庫では、毎年土用の入りになると曝書(風干)が恒例となっていた。享保4年の風干は6月4日に始まり、6月5日には文庫の東蔵の長持9棹に納められた新国絵図、同6日には西蔵に納められた9棹の同絵図の風干がすみ、ただちに破損箇所調査が行われた。同7日には古国絵図76枚の風干が済み、書物奉行は西丸若年寄の長門守大久保教寛へ次のような「破損修復伺書」と「新国絵図之内破損之覚」を提出したのであった。

(前略)

- 一、新国絵図破損修復伺書、長門守殿(西ノ丸若年寄大久保教寛)江差上申候。
新国絵図之内、破れ申候絵図、并箱・鎖等破損申候も御座候。吟味仕、別紙ニ書記申候。繕被仰付候様仕度、奉存候。絵図之繕出来以後、箱者御細工方ニて繕申候様ニ被仰渡可被下候。以上。

六月

御書物奉行

- 一、右絵図繕御書物藏にていたさせ申候得者、朝夕御賄御辯當奉願候。
一、書物屋方ニて繕申候様ニいたさせ申候は、寫取候儀ハ不及申上、他見不仕之様、誓詞可申付候。
一、細工人手間代、吟味仕候處、左之通御座候。
一日ニ付壹人
四匁 御藏へ罷越、朝夕御賄被下手間代。
一日ニ付壹人
四匁五分 御書物屋方ニて繕仕候手間代
右両様之内、如何可申付候哉、奉伺候。以上

新国絵図之内破損之覚 (以下、改行を／で示し詰めた)

摂津 箱損申候／相模 絵図二ヶ所破レ申候／駿河 絵図大小五ヶ所破レ申候／甲斐 紐損申候／常陸 絵図一ヶ所破レ、箱・鎖損申候／上総 絵図一ヶ所破申候／下総 絵図大小六ヶ所破申候／安房 絵図一ヶ所破レ申候／上野 絵図一ヶ所破レ申候／陸奥 南部領 絵図一ヶ所破レ申候／出羽庄内領 絵図二ヶ所破レ申候／備後 絵図二ヶ所破申候／阿波 絵図大小七ヶ所破申候／讃岐 絵図大小三ヶ所破申候／安芸 絵図一ヶ所破申候／伊予 絵図二ヶ所破レ、箱・鎖損申候 土佐 絵図大小五ヶ所破申候／筑前 絵図一ヶ所破申候 肥前 箱・鎖損申候／薩摩 絵図一ヶ所破申候 以上

右之通相認、差出候。長門守細工人方ニて申付候儀ハ如何ニ被思召候。細工人方ニて申付候儀ハ如何ニ被思召候との御挨拶故、御蔵会所ニて御風干中ニ出来仕候様ニ申付度旨、申上候所、御相談被遊追而可被仰聞由御座候。

(後略)

書物奉行は、新国絵図の破れ、収納する箱、その箱と紐を固定する鎖、そして紐などの破損を調査して修復を申請。その修復作業順序は図の破れの修復から始め、箱の修復は細工所で行いたいとしている。また、かなりの国絵図が破損しているが、これは閲覧頻度によるものとみられる。吉宗が将軍に在任した享保元(1716)から延享(1774)元年にいたる29年間で閲覧された新国絵図は413枚に及んでいる。最も多い元禄武蔵国絵図は22回であり、大型の国絵図をこれだけの頻度開ければ、折り目などの破損が発生するであろう(磯永「紅葉山文庫収蔵『献上国絵図』の管理と利用」史学論集〈佛教大学30周年記念〉1999)。

さて、ここで注目されるのは、修復の付帯条件である。即ち、図の破れの修復を文庫内で朝夕の弁当付きでさせるべきか、江戸城から持ち出して「御書物屋」(後述の山形屋伊右衛門、本の販売から修復までを行っていた)で修復させるかを、両者による手間賃の違いを添えて伺いをたてているのである。また、「御書物屋」で修復させる時は、「国絵図の写し取りはいうまでもなく、修復の職人以外に見せないように誓詞を出させる」としている。

この申し出を受け取った若年寄の大久保は、口頭で国絵図を江戸城から持ち出し「細工人方」(山形屋)で修復することに対する懸念が告げたのであった。これに対し、書物奉行は文庫の会所のなかで風干中に行いたいと返答したが、大久保はさらに相談の上に返事するとし、即答はしていない。多くの書物は江戸城から持ち出して書物屋で修復されているが、国絵図はその重要性から文庫からの持ち出しを大久保が躊躇したみられるのである。

6月8日に大久保は、文庫内での修復を決定し、書物奉行の松田・惟橋兩名を呼び出して次のような条件で修復の許可を出している。

(前略)

一長門守殿、御兩人(書物奉行)より出、此間申上候國絵図繕彌可申付之由、被仰渡候。尤、就夫向々へ御用之書付認是又差出候様と、被仰候。依之、山形や伊右衛門呼寄、細工人之様子旁承相極、出入之御断・御辯當等書付差出可申と存候。以上。

(後略)

大久保は、書物奉行は修復担当の山形屋伊右衛門を呼んで細工人の素性や人物を確認し、文庫への出入許可や弁当などを申請するように命じた。文庫の最重要資料の一つである国絵図の情報が外部に漏れないように文庫内で修復を行い、細工人の人物調査するなど、細心の注意が払われたことが知られる。

6月12日には、いよいよ明13日からの江戸城内の文庫において山形屋の手代1人と細工人2人によって修復作業が行われることが決定され、目付・賄方・細工頭へと次の書状が届けられた。

御目付江

国絵図御修復仕候付、御書物師山形伊右衛門手代・細工人上下三人、明十三日より御修復相済候迄、御書物蔵江罷出候間、蓮池御門・坂下御門・御寶御門、同役印鑑を以罷通候様、被仰渡可被下候。

六月十二日

御書物奉行

御賄方江

国絵図御修復仕候付、細工人貳人、明日十三日より御修復相済迄、夕御辯當御書物蔵江差越候様御賄方江被仰渡可被下候。雨天之日者、延引仕候。

六月十二日

御書物奉行

御細工頭江

国絵図箱并鎖・紐等損し申候分、御細工所^江遣候ハ、早速御修復仕、御書物蔵迄差越候様ニ、被仰渡可被下候。度々御用^ニ而差上申候間、差急キ出来候様、仕度奉存候。

六月十二日

御書物奉行

(中略)

一明日、細工人迎案内、黒鉄之者可被遣候、其節、印鑑御越可有之事、

(後略)

目付へは、通行許可の印鑑を提示すれば蓮池門、坂下門、御宝門を通すこと。賄方へは夕食の弁当の届けて欲しいこと。細工頭には箱の修復を急ぐことが要求された。また、明日の細工人の案内に黒鉄者(江戸城内の掃除や営繕の係)に通行許可の印を持たせて差し向けることも決まっている。このなかで興味深いのは賄方へ夕食の弁当を要求している点である。これは、作業が終るまで夕方に弁当を食べ、現代流にいうならば残業をして修復を行うためであったと思われる。

6月13日、黒鉄者に案内された山形屋の手代・細工人が文庫に到着、早速国絵図の修復が開始された。当然のことながら、終始書物奉行の厳重な監視下のもと修復が行われたのであった。相模国絵図のみがいつ修復されたかは不明であるが、国絵図の修復は次のように進んでいる。以下、日ごとに史料を掲げてみよう。

6月13日「山形屋伊右衛門方江、今日より手代・細工人差越国絵図御修復取掛り候様ニ申、即刻兩人罷越、常陸・駿河貳枚、出来致候」

6月14日「国絵図繕細工人貳人出ル。上野・下総・安房・安芸四ヶ国繕出来。」

6月15日「今日、山王礼ニ付、惣休。」

6月16日「国絵図南部・庄内・上総・備後四箱、相済。」

6月17日「国絵図繕 阿波 讃岐 伊豫 土佐 四箱相済。」

6月18日 記載なし

6月19日「国絵図繕 筑前 壹枚相済。」

6月20日 記載なし

6月21日 記載なし

6月22日「国絵図薩摩壹枚、繕出来。」

五箱

6月23日「国絵図 箱・鎖・紐等之繕出来、御細工所より持参、請取、請取手形、追而印形遣申候筈。」

6月24日「国絵図箱之繕出来、御細工所よ来り候手形、主計(書物奉行堆橋主計)印形相調、差越之。」

「国絵図繕細工人弁当、先明日より差越候事無用ニ候。又呼出し候節案内為可申越役人へ申達候様ニと、弁当持参之者七兵衛申渡之。」

このように、国絵図の修復に関しては書物方奉行と若年寄の間で詳細な検討が行われ、書物奉行の監督下、文庫内において実施されたことが知られるのである。

編集後記 ■♥会費の納入をわすれていませんか。一般2千円／学生・院生千円。口座番号00120-6-18473、加入者名国絵図研究会。▲平成の合併にあわせた自治体史編纂に追われてます。もともと進まない自分の研究がなおも遅れます。某首相のお陰です。

ニュース編集担当・・磯永和貴 〒837-0912 福岡県大牟田市大字三池 895-1

Tel & fax 0944-53-5859 mail アドレス isonaga@k3.dion.ne.jp